

集落の再編戸数と葬儀の出役人数に関する考察

A Study on Community Reorganization from the Viewpoint of Funeral

福与 徳文*
FUKUYO Narufumi

1. はじめに

過疎地域の集落では、役員確保や冠婚葬祭が困難になったり、生産・生活基盤施設の管理が充分に行えなくなるなど、自治機能が低下しつつある。こうした機能を再生する方法の一つに集落再編¹⁾がある。

集落再編を実施する上で計画論的に重要な課題として、「集落を何戸に再編すればよいのか」という集落の再編水準が挙げられる。本報告では、限界集落の深刻さを象徴する現象として「集落単独で葬儀が行えなくなった」ことが指摘されている²⁾点に着目し、集落の再編戸数と葬儀の出役人数との関係を、中山間市町村担当者へのアンケート(対象 2,154、回答 803、2002 年実施)と北海道標茶町の集落再編事例から考察する。

2. アンケートから見た集落再編の概況

中山間市町村担当者に最近 10 年間における集落再編の実施状況を聞いたところ、実施市町村は回答市町村の 7%にすぎなかった。地域別にみると北海道が最も多く、四国と九州がそれに続く(図 1)。集落機能の低下状況と集落再編の実施状況との関係を分析したところ、「冠婚葬祭が困難になった集落がある」と回答した市町村ほど集落再編を実施する傾向にある(図 2)。全国規模のアンケート結果からも、冠婚葬祭が困難になったことが集落再編の原因になっていることが見てとれる。

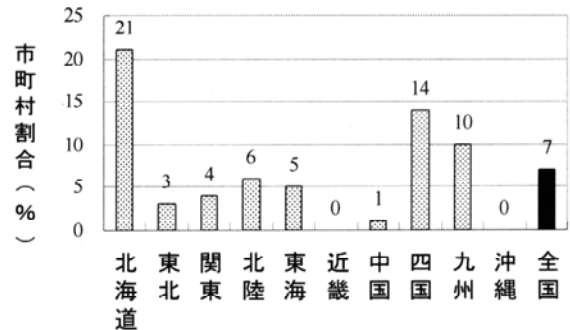


図1 集落再編実施市町村の割合
Present Situation of Community Reorganization

3. 標茶町における集落再編

次に集落再編の先進的な自治体である北海道標茶町のケースから³⁾、再編戸数と葬儀の出役人数の関係をみてみよう。

(1)再編戸数

標茶町では、最盛期(1959年)には1,551戸あった農家が1980年には768戸と半減し、10戸を下回るような集落が多くなった。このため、①1集落で葬儀を行えない、②お祭り等を開催できない、③集落組織役員の兼任が多い、④新たな取り組みに関して議論できない、⑤離農跡地の受け手がいない、という問題が生じていた。そこで、1983年から集落整備事業(町単事業)が実施され、110集落(1981年)が39集落(2003年)に再編された。

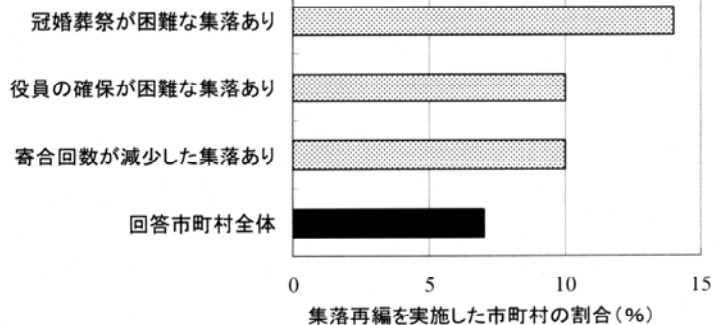


図2 集落機能低下と集落再編
Functional Decline and Reorganization of Communities

*農業工学研究所 (National Institute for Rural Engineering)

キーワード: 集落再編 再編戸数 自治機能 葬儀 過疎地域

表1は標茶町農村部における集落再編の概況を示したものである。再編戸数に注目すると、大半が30～50戸に再編され、とくに40戸前後に再編された集落が多いことがわかる。町から「40戸前後」というガイドラインが提示されたわけではなく、集落のまとめ方は住民に委ねられ⁴⁾、結果として「40戸前後」になったのである。

(2) 葬儀の出役人数

標茶町では葬儀の一切を集落で行っている。火葬場ができる前は、墓地で薪を積んで自分たちで遺体を焼くことまでしたという。現在ではそこまで行わないものの、葬儀の出役人数は業者への外部化が進んだ府県の農村よりも多くなる。再編前、集落戸数が減少したときは、葬儀があるたびに近隣集落に支援を要請していた。集落単独で葬儀を行えなくなったことが、集落再編を行うことになった最も大きな理由の一つなのである。

葬儀における役割分担と出役人数をまとめたものが表2である。葬儀の規模にも大小があるため一概にはいえないが、出役人数は男性が25～40名、女性が10～20名である。1戸あたり男性1名、女性1名の出役だとすると、40戸という再編戸数は、集落単独で葬儀を行うのにちょうどよいか、少々余裕がある程度の戸数ということになる。

4. まとめ

集落単独で葬儀を行えないことは、集落再編の必要性を住民や市町村に感じさせる強い要因となっている。葬儀のほとんど一切を集落で行う標茶町のような場合、再編戸数は当該地域における葬儀の出役人数を上回る水準が必要となる。一方、葬儀の外部化が進んでいる府県農村のような場合、葬儀と再編戸数の関係も標茶町の事例とは当然異なると思われる。これに関しては、今後、府県農村における集落再編事例と比較分析しながら明らかにしていきたい。

表1 標茶町農村部における集落再編の概況
Community Reorganization in Shibecha Town

地域名	再編年度	再編集落名	再編前集落数	最盛期戸数(1962)	再編後戸数(1999)	再編前集落の平均戸数
オソベツ	1983	中オソベツ	1	90	45	45.0
	1983	上オソベツ	4	56	40	10.0
磯分内	1996	磯分内中央	2	44	34	17.0
	1995	川東	6	71	29	4.8
	1995	川西	5	78	42	8.4
虹別	1988	中虹別	4	52	40	10.0
	1990	上虹別	7	70	40	5.7
	1991	虹別	5	63	39	7.8
	1991	萩野	8	86	50	6.3
弥栄	1987	弥栄	1	69	46	46.0
茶安別	1986	上茶安別	6	103	29	4.8
	1995	中茶安別	8	173	100	12.5
久著呂	1989	久著呂	8	146	58	7.3
阿歴内 ¹⁾	1988	阿歴内	15	251	166	11.1

1)内部に比較的独立性の高い5つの区がある。

表2 葬儀の役割と出役人数(標茶)
Roles on Funeral in Shibecha Town

役割	人数
葬儀委員長	1
葬儀副委員長	1～2
総務	5～10
会計	7～8
設営	7～8
葬送	5～10
賄(女性)	10～20

【注】

- 1)本報告の「集落再編」は、移転を伴わない集落組織の統合を指す。
- 2)たとえば、大野晃(1993):限界山村における限界集落化と「山」の環境問題(日本農業年報40)、長谷川宏二(1972):山村集落の構造変化過程(山村振興調査会調査資料35)など。
- 3)標茶町の集落再編事例を扱った研究には、長谷山俊郎(1996):新しい地域活動の再構築(農村生活研究95)、玉井康之(1995):酪農地帯における集落再編の取り組みと成果(長谷山編「北の国型村落の形成」)、小内純子(2002):住民主体の地域形成の試みと自治体(地域社会学会年報14)などがある。
- 4)標茶町における集落のまとめ方としては、大きく分けて①地形的条件、②開拓時期、③学校区単位の3とおりがあがる。たとえば、虹別地域では小学校区単体に再編された。また、磯分内地域では、戦前入植の2つの部落会が磯分内中央地域会に再編され、戦後開拓部落のうち釧路川の東側の6つの部落会が川東地域振興会に、西側の5つの部落会が川西地域振興会に再編された。